

平成29年度『女性のチャレンジ賞』受賞者一覧

表彰者	【個人】伊藤 裕子 (公益社団法人大分県薬剤師会 理事) (日本禁煙科学会薬剤師分科会 会長)	【個人】後藤 政子 (佐伯市番匠商工会女性部 部長) (大分県商工会女性部連合会 会長)	【個人】丹羽 和美 (社会福祉法人暁雲福祉会 常務理事) (障害福祉サービス事業所ウィンド施設長)
所在地(住所)	大分市大石町	佐伯市弥生	大分市木田
設立(活動開始)	H17年～	H20年～	H11年～
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成17年、日本禁煙科学会薬剤師分科会会長として、各地で禁煙支援の講習会を実施。</li> <li>●日本禁煙科学会認定上級禁煙支援薬剤師、大分県内の禁煙支援の専門家として、禁煙支援や禁煙相談薬局指導を行う。</li> <li>●平成25年からおよそ3年間、大分県薬剤師会災害対策委員会の委員長を勤め、災害支援薬剤師の養成に積極的に取り組む。</li> <li>●平成28年、熊本地震の際、地震翌日に自らモバイルファーマシー(薬局の機能を備えた災害対策の医薬品供給車両)とともに益城町に出動し、被災者支援に従事する。</li> <li>●平成29年、九州北部豪雨の際も、いち早く日田市に出動し、避難所を巡回。お薬相談コーナーを開設し、住民の相談対応や服薬指導等を行う。</li> <li>●災害支援と禁煙支援の専門家として、薬剤師会の会員だけではなく、県民への啓発、支援活動等今後も様々な活躍が期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成17年、佐伯市山間部の4商工会の合併により設立された「佐伯市番匠商工会」に所属し、佐伯商工会議所、佐伯市あまべ商工会とともに佐伯市の経済活動を担う。また、佐伯市山間部の女性会員を率いて、地域を活性化させる活動を積極的に実行している。</li> <li>●昭和30年代頃まで盛んだった養蚕のレガシーとして、直川地域に多く残る桑を地域資源として見直し、「くわの美ジャム」を開発。特産品として雇用の場を生み出すことを目指す。</li> <li>●宇目地域の特産品である「ホオズキ」が、盆だけでなく、日常的に活用されるよう、お守りやリースなどの商品化に向け、加工技術の研鑽や試作品の作成、販売価格の検討や番匠地域外の販売ルートの検討などを実施。</li> <li>●佐伯市の特産品である「スイートピー」を用いた花雛を作成し、「おひなさままつり」に出展するなど、地域の活性化に積極的に取り組む。</li> <li>●女性経済団体のリーダーとして、今後より一層の活躍が期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●昭和58年より社会福祉法人暁雲福祉会の運営に参画。同法人の常務理事。専門は社会福祉学(修士)。障害福祉サービス事業所「ウィンド」の施設長として、知的障がい者の生活支援・就労支援に取り組む。</li> <li>●平成20年大分国体の際には、県内11の社会福祉法人をまとめ、障がい者施設の共同生産モデルを確立。平成23年3月11日の東日本大震災の発災を受けて県内5カ所で災害時要援護者を中心とした避難訓練を実施(延べ2,000名参加)。防災シンポジウムをグランシアタで開催。県内外へ災害時要援護者への支援の必要性を発信した。</li> <li>●障がい者の雇用促進のため、平成20年大分キャノン株式会社と「キャノンウィンド株式会社」を設立。取締役として尽力。社会福祉法人と企業の協働モデルとして、また、社員の高い就業定着率が全国より注目される。</li> <li>●玖珠町と協働して、旧豊後森機関庫の周辺に、障がい者が働く「ウィンド2」を設置予定。H30年春開設に向け、着実に準備を進める。</li> <li>●県の附属機関の委員を歴任。政策決定過程に参画し、審議・提言を行う。今後も、障がい者の地位向上に貢献することが期待される。</li> </ul>

平成29年度『女性のチャレンジ賞』受賞者一覧

表彰者	【個人】宮脇 恵理 (ミヤシステム株式会社 常務取締役) (合同会社アイ.ジー.シー 代表社員)	【個人】山路 しのぶ (株式会社文化財保存活用研究所 代表取締役)	【団体】アースデイ中津 代表者 須賀 要子
所在地(住所)	大分市横尾	大分市明野西	中津市上如水
設立(活動開始)	H14年～	H21年～	H20年～
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成14年、原価管理を建設業界へ展開するために会社を立ち上げ、建設業向け原価管理ソフトの開発、販売を行なうとともに、業界においてその概念を浸透・普及させるため、(一社)コスト管理士協会を設立し、技術者への支援を行っている。</li> <li>●建設業界で導入が遅れているIT技術の普及、導入にも力を入れており、その技術、経験を活かし、NPO法人大分経営推進センター等において、講師やアドバイザーとしても活躍。</li> <li>●建設業界において、IT技術の活用などを通じて女性進出を模索するほか、女性起業家や働いている・働こうとしている女性たちを応援するための組織として「女性起業家・企業家プロジェクト IGC」を立ち上げ、セミナーやイベント、講演などの活動を積極的に行っている。多くの女性が社会で活躍できるようきっかけづくり、仲間づくりに尽力しており、今後も活躍が期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成21年、県内に磨崖仏をはじめとする石造文化財が多数存在するにもかかわらず、県内に文化財の保存修復を中心とする企業がないことから、1つでも多くの文化財を後世に残すために起業。大分県内唯一の屋外文化財の保存修復会社である。</li> <li>●文化財の環境を測定したり、科学分野の機器を応用し文化財の劣化診断をしたり、文化財の現状に即した保存修復方法を検討。九州全域で業務を受けるまでに会社を成長させる。</li> <li>●文化財の保存修復用の材料を開発し、文化財だけでなく住宅や墓石なども保護することにも貢献。</li> <li>●熊本地震に際しては、被災地に入り、無人航空機(ドローン等)での撮影なども行い、文化財の保存修復に努めた。</li> <li>●今後、地域の過疎化などに伴い、文化財の維持管理が困難になることが予想されるなかで、文化財と地域をつなぐ橋渡しの存在になることが期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成20年、ごみ減量化の取組によりCO2を削減し、持続可能な社会づくりを進めることを目的に子育て中の母親たちが中心に団体を設立。</li> <li>●毎年、環境をテーマとした啓発イベント「アースデイ中津」を開催。参加人数は最も多い年で3万6000人、参加団体は170団体にのぼる。また、高校生を対象に、地球環境の現状と環境保全活動の大切さを伝える「次世代育成ボランティア事業」を実施。</li> <li>●平成26年から、江戸時代の文化から循環型社会を体験的に学ぶイベント「フェスタディ ドルチェ」を実施し、2000人～3000人が来場している。</li> <li>●平成21年、ごみゼロおおい推進隊に任命。平成28年、おおいたうつくし推進隊に任命。</li> <li>●平成29年、活動拠点となる施設「山望庵」を開設。エコを通して人がつながる場づくりを目指すとともに、「美」「健康」など女性の関心の高い分野へも活動を広げようとしており、今後の展開が大いに期待される。</li> </ul>

表彰者	【個人】岩切 知美 (株式会社成美 代表取締役)	【個人】橋本 千春 (Gran Primavera 代表)	【個人】村上 和子 (社会福祉法人シンフォニー 理事長)
所在地 (住所)	豊後大野市犬飼町	佐伯市蒲江大字西野浦	大分市中尾
設立(活動開始)	H24年～	H26年～	H3年～
活動内容	<p>●祖母から教わった豊肥地区の郷土料理「鶏汁」を次世代に残したいという思いから起業を決意し食品加工業を開始。大学で学んだ栄養学と息子3人を育てた経験を基に、県産の農産物のみを使用した「豊後おがたん鶏汁」を商品化。その後も、顧客の求めるものを徹底的に研究し、無添加へのこだわりやパッケージの改良を重ねるなど試行錯誤を繰り返しながら、県産素材のスープやジビエを使ったレトルト商品も開発し、百貨店や空港などで販売するまでに会社を成長させた。</p> <p>●現在は犬飼町に加工所を設け、地元の住民の雇用の場にもなり、また高校生とともに商品開発に取り組むなど、地元産業の活性化や次世代育成にも貢献している。</p> <p>●全国規模の様々な賞を受賞し、販路も拡大しており、今後もさらなる活躍が期待されるとともに、40歳で起業を決意しチャレンジする姿は、女性の大きな励みになるものである。</p>	<p>●蒲江の水産会社で働く中で、水産業の衰退と観光地としての潜在能力の高さ、PRの難しさを実感し、蒲江の魅力である新鮮な魚介類を知ってもらうことで地域活性化を図りたいと考え、平成26年に起業。贈答品としては使えないウニを使ったウニしょうゆ「ウニゴールド」を開発。女性目線を活かし、使いやすさやボトルのデザイン、商品を使ったレシピの紹介なども行った。他にも蒲江の海の幸と県内のおいしい物を組み合わせた商品を開発し、商品を通して大分、佐伯、蒲江を売り出している。</p> <p>●食品開発だけでなく、蒲江の散策マップの作成やノルディック教室の開催など、地域を売り出すための様々なコンテンツを企画し、観光振興においても活躍。</p> <p>●今後も地域の特産品や資源を活かして、水産業や地域を活性化することが期待される。</p>	<p>●平成3年に小規模作業所ネバーランドを開設。「まちで働く」ことにこだわり、就労訓練そのものをまちの中で行い、様々な模擬体験と就労訓練を効果的に行ってきた。レストラン、喫茶店、マンションや病院などのメンテナンス業など、障がい者の就労機会の拡大に取り組み、働く場を創出。</p> <p>●働く場だけでは利用者のニーズに応えられないことに気付き、平成10年社会福祉法人シンフォニーを設立。地域で安心して暮らすことができるよう、ニーズに合った様々な環境整備や福祉サービスを創出し、支援を行っている。また、県の附属機関の委員なども歴任しており、委員としての意見が福祉施策に反映されるなど、政策・方針決定過程においても活躍している。</p> <p>●「無いものは創る」ことを実行し、働く場や各種支援サービスが創出されるなど、今後も大分県の福祉施策の中心的存在としての活躍が期待される。</p>

表彰者	【団体】大分レディースハンタークラブ 会長 田北 たず子	【団体】企業組合戸次ごんぼの会 代表理事 藤田 泰子
所在地 (住所)	豊後大野市大野町	大分市大字中戸次
設立(活動開始)	H28年～	H17年～
活動内容	<p>●鳥獣被害は深刻な状況が続いており、狩猟者も年々減少・高齢化が進んでいる。狩猟者は男性が多く、女性が参画しにくい状況の中、県内の女性猟師が、女性ならではの視点から新たな狩猟者の確保や狩猟技術の向上、ジビエの利活用等について情報交換や連携活動を促進する場を設けるため、全国で3例目(九州初)の女性猟師の会「大分レディースハンタークラブ」を設立。</p> <p>●会員には、捕獲実績を積み、地域の鳥獣被害の軽減の一躍を担っている人や、捕獲したイノシシ等の肉が消費できない現状を憂慮し、加工施設を開設、解体から販売まで行い、ジビエの普及に貢献している人もいる。</p> <p>●女性の少ない分野で女性の視点を活かした取組にチャレンジする姿は、女性にとって大きな励みとなるものである。また、鳥獣被害対策の貢献にとどまらず、獣肉の加工品製造や新たな産品開発、ジビエ料理普及の取組は、農村地域の活性化への貢献も大いに期待できる。</p>	<p>●戸次特産のごぼうを使った名物料理を作りたいという思いから、戸次地区婦人会で研究・開発を開始。婦人会が解散したため、地域住民から会員を募り、平成17年に「戸次ごんぼの会」を結成、「ごぼまん」を商品化。加工場兼店舗として民家を借り、販売を開始。商品製造時の様々な改善や努力を重ね、また新商品の開発も積極的に行い、着実に売り上げを伸ばしてきた。</p> <p>●平成27年に基盤強化として「企業組合戸次ごんぼの会」を設立、平成28年には新たな加工所兼店舗をオープンさせ、若い人に引き継いでいけるよう収益性の向上を目指し、事業の拡大を図っている。</p> <p>●地元の特産品を使った商品開発を行い、婦人会の活動が契機となり、企業組合を設立するまでに成長させていったことは、地域の女性にとって大きな励みとなるものである。また、若い人に引き継いでもらえるように事業を展開し、販売強化を図っており、今後も活躍が期待される。</p>

表彰者	【団体】 愛の里工房 代表者 高橋 文子	【団体】 有限会社 エム・ナイン 取締役 菅 芙美子	【個人】 吐合 紀子 (社会福祉法人みずほ厚生センター さ ぼーとセンター風車 相談支援専門員)	【個人】 綿末 しのぶ
所在地 (住所)	佐伯市本匠大字宇津々2012-4	竹田市荻町馬場 437-1	臼杵市大字臼杵 72 番地 137	杵築市大字八坂
設立(活動開始)	S 5 8 年～	S 5 4 年～	H 1 7 年～	H 1 5 年～
活動内容	<p>●代表者の高橋さんが豊の国づくり塾1期生として3年間学んだ経験から、地元の特産品を活かしたお土産品を作りたいと思い、仲間を募って異業種の女性4名で始めた。本匠の椎茸を知ってもらいたいという思いから、「雪ん子寿司」が完成した。</p> <p>●平成12年きのご料理コンクール全国大会で最優秀賞である林野庁長官賞を受賞。平成20年都道府県駅弁ランキング第2位、平成25年第1回地場もん国民大賞「銅賞」を受賞。その他にも数多くの賞を受賞している。</p> <p>●本匠の工房や県内各地の道の駅、スーパー、デパート、ホテルなどで販売している。また、急速冷凍庫を整備し、ネット販売による全国発送が可能となり、販路拡大に積極的に取り組んでいる。地元産椎茸の消費拡大により地域へ還元していくことで、今後も地域振興への貢献が期待できる。</p>	<p>●昭和54年にトマト生産農家23名で「恵良原トマト婦人部会」を結成し、「生活改善グループ」に加入。昭和58年に規格外等の理由で出荷できないトマトを活用するため加工品開発を開始。10年間の研究を経て、平成4年に営業許可を取得し、本格的にケチャップの販売を開始した。平成14年、事業の発展に伴い、9名で(有)エム・ナインを立ち上げた。</p> <p>●おおいたワンコイン・ふるさと商品認定審査会等で数多くの賞を受賞。また、消費者との交流や地元小中学生への食育、視察・研修の受入等も行っている。トマトは地元産にこだわり、玉ねぎ・ニンニクも自社栽培に取り組み、より安全な商品作りをしている。</p> <p>●荻町にある直売所「とまとちゃん」や県内の道の駅、デパートや空港、福岡県などでも販売している。平成20年からネット販売も行っている。荻産トマトのブランドアピールの一翼を担い、またトマト生産者の所得向上にも貢献しており、今後も地域活性化への貢献が期待できる。</p>	<p>●30年以上前に美術教師として勤めた養護学校で、素晴らしい絵を描く生徒と出会い衝撃を受けた。平成17年に障がいのある人たちの自主的な創作活動を支援し、発表の機会を設けることで「社会参加」「自己実現」の促進を図ることを目的に「元気のぞろアート展」を実施。以来、毎年大分市のアートプラザと県内各施設で巡回展を開き、これまでの10年間で累計来場者数は2万人を超えている。</p> <p>●平成27年には新たな取組として、臼杵市の商店街で「うすきまちなかアート」を開催。30商店に約300作品を展示し、日頃アートを見る機会の少ない人にも見てもらうことができ、また地域の賑わいづくりにも貢献。</p> <p>●今後もアートを通して、人と人との出会いの場をつくることにより、障がいの有無にとらわれない「共に生きる」ネットワークの構築を目指した取組が期待できる。</p>	<p>●専業主婦の時に社会との接点を持ちたいと思い、興味・関心のあった環境について自ら勉強し、積極的に資格を取得。様々な資格を取得し、環境教育部門のエキスパートとして、県内各地、幼児から高齢者まで対象にした環境学習を、これまでに100回以上実施し、受講者は5000人を超える。地道で継続した取組により、県民の環境に関する知識の向上や環境保全に向けた意識の高揚に大きな成果を上げている。</p> <p>●平成15年から「八坂かっぱクラブ」の実行委員長として、子どもたちに、住んでいる地域の自然や文化にふれ、環境を考え、自然を大切にすることを育む活動をしている。</p> <p>●専業主婦の経験を活かし、また自ら勉強して社会との接点を掴んで果敢にチャレンジする姿は、女性の大きな励みになるものであり、今後の更なる活躍にも期待ができる。</p>

平成26年度『女性のチャレンジ賞』受賞者一覧

表彰者	【個人】和泉 やす子 (ハウスぶどう、白ネギ農家・大分県生活研究グループ連絡協議会会長)	【個人】大山 直美 (大分エコセンター株式会社 代表取締役)	【個人】山村 恵美子 (株式会社 みらい蔵 代表取締役)	【団体】株式会社 海ミエール加工所 代表取締役 下川 愛子
所在地 (住所)	豊後高田市呉崎2266	大分市大字三佐大新田1354-8	豊後大野市犬飼町大寒1700番地	津久見市高洲町3824-69
設立(活動開始)	S45年～	H11年～	H9年～	H15年～
活動内容	<p>●専業農家に嫁ぎ、農業経営のノウハウを勉強。生活改善グループ連絡協議会に加入し、地域の農家の女性を巻き込みながら、経営管理から食育、地産地消活動の推進まで幅広く活動を展開。労働時間の記帳、把握、分析や生活設計表を作成し、家族の計画を一覧表にすることにより、目標が定まり、後継者への経営移譲もスムーズに実施することができた。</p> <p>●海外視察研修は、視野を広げる大きなきっかけとなり、特にオーストラリアの農場に3日間滞在した経験から、田舎には人の心を癒す力があることを実感。グリーンツーリズムの専門家養成講座を受講し、農家民泊「明朗屋」を経営。中学生や外国人を年間約100名受け入れている。</p> <p>●平成20年からは豊後高田市農漁村女性集団連絡協議会会長に就任。5年前から玉津まちの駅直売所「夢むすび」の管理責任者として、企画や運営に取り組んでいる。今後も地域を元気づけるとともに起業のアドバイザーとしての活躍も期待される。</p>	<p>●大山金属株式会社分社化に伴い、平成11年に設立。女性経営者の少ない業界で、処理価格や処理施設の見える化など先進的な取り組みを進め、平成26年12月には「全部リサイクルセンター」を新設し、この一施設としてリサイクルへの関心を高めるための「エコアライアンスミュージアム」を設置。平成25年度「大分県ビジネスプラングランプリ奨励賞」受賞。</p> <p>●平成25年、女性の積極的な社会進出や女性起業家等の成長を支援する団体「iGC44」を立ち上げた。起業している女性など会員は約180名。セミナーやSNSなどで交流を深めている。</p> <p>●使わなくなったモノなどにアイデアとデザインを加え、新しい商品に再生するアップサイクルを推進。地域での環境教育のため、親子向けのイベントやエコ・クッキング教室などを開催。情報発信について学生と一緒に検討を進めるなど、従来男性中心の分野で果敢にチャレンジする姿は、女性の大きな励みになるものである。</p>	<p>●合資会社山村商店に勤務。平成9年農業資材を販売する(株)みらい蔵設立。先進的な事業を展開し、会社を飛躍的に発展させた。平成22年から代表取締役に就任。農家の夢を実現することが仕事である、との方針を掲げ、経営理念を作り、経営戦略を立て、従業員とのコミュニケーションを大切にするなど、社風の改善に努めた。</p> <p>●地域の農家を積極的に訪ね、作物の生育は土壌によることに気づき、土壌分析を開始。その後、科学的な土壌診断・施肥システムを確立。IT環境整備事業に取り組み地域農業を支援。平成23年度「大分県ビジネスプラングランプリ最優秀賞」、平成25年度「九州ニュービジネス協議会九州アントレプレナー大賞」を受賞。広く県内外からの分析依頼に対応している。</p> <p>●現在、分析室と研修室を含む建物を敷地内に建設予定で、研修施設を充実させる。自社で農業生産法人も設立。今後、更なる活躍が期待され、農業振興への一層の寄与が期待できる。</p>	<p>●JA 女性部つくみ支部を主体として農家の副収入と女性部会員の減少を食い止めることを目的に販売所「物産館うみえーる つくみんち」内の加工所で鶏飯、ひじき飯を製造。商品開発に取り組み、品数を増やした。売上げを伸ばし、2年目から黒字。平成23年、裏地に加工施設を増設。クッキーなどお菓子部門にも力を入れている。</p> <p>●平成21年度「七福ごはん」が「おおいた・ワンコインふるさと商品」の優秀賞を受賞。この他「まぐろとろわた」「マグロ入りひじきめしの素」なども製造。平成26年「山椒入りチョコクッキー」が、米粉レシピコンテストで優秀賞を受賞。郷土料理の販売や地元の特産物の商品化により、地域の活性化に大きく貢献している。</p> <p>●平成25年に法人化。働きやすい職場づくりを整えるとともに、農家以外の地元の女性を採用。世代交代がスムーズにでき、持続性のある企業経営体として発展しており、地域の振興に更に貢献することが期待できる。</p>

平成24年度『女性のチャレンジ賞』受賞者一覧

表彰者	【個人】 浅利 妙峰 (有限会社 糰屋本店 代表取締役)	【個人】 桑野 恭子 (NPO法人 地域環境ネットワーク 理事)	【個人】 平川 加奈江 (株式会社 シンシアリー 代表取締役)
所在地 (住所)	佐伯市船頭町14-29	大分市西新地1-3-5サンビル1階	日田市大字花月1376番地
設立	創業1689年(取締役就任H19年～)	H16年～	H23年～
活動内容	<p>●杜氏と呼ばれる男性が主流のこうじの製造現場において、こうじの活用を問題にすることは少なく、こうじを使って家庭で味噌や甘酒などを手作りする文化は急速に失われつつあった。</p> <p>●平成19年、次男が家業を継ぐ決心をしたのを機に、本格的にこうじの販売と普及活動を始めた。経営状態を改善するため、県の支援事業に積極的に参加し、インターネットを活用した販売方法の研究と自社ブランドの開発に取り組み、甘酒の原液である「甘糰」、江戸時代から広く使われていた「塩糰」、新たな発想による「こうじ納豆」など次々と新商品を開発した。</p> <p>また、塩糰を塩、甘糰を砂糖に代用したレシピを次々とサイトやブログで発信したほか、活用方法を知ってもらうための料理講習会も実施した。</p> <p>●こうした地道な活動の結果、全国から注文が届くようになり、メディアにも取り上げられた。</p> <p>混迷を極めていた「こうじ」業界にあって、昨年の業界売上は2億円から31倍伸び、62億円と飛躍した。</p> <p>この塩糰ブームの火付け役として、全国の仲間へ勇気を与え、日本古来の食材であるこうじの新たな活用法を広め、普及させた取組は、女性起業家のお手本となる発想である。</p> <p>「こうじ」を通じた国内外の交流など、今後の活躍がますます期待される。</p>	<p>●一級建築士として民間企業に勤務した後、阪神淡路大震災復興のため、夫と事務所を設立する。平成10年に大分市に拠点を移し、12年に任意団体「プラスエコ」を立ち上げ、県産材の普及活動などに取り組んだ。16年には、NPO法人「地域環境ネットワーク」の設立に協力し、理事に就任する。</p> <p>●平成18年から3年間、大分県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けたことを機に、環境分野で多くの事業に携わり、行政や企業とのネットワークが広がった。その結果、23年からは、NPOの経営指導ができる専門家を養成し、NPOの自立を支援する取組やNPO等を支援するための資金提供を行う市民ファンドの創設など他のNPOを支援する活動を行う。</p> <p>●平成24年に、寄附者が県民税・市民税の税額控除が受けられる九州初の「指定NPO法人」の指定を受けた。</p> <p>「NPOの活動は、女性が新しく何かを始めるときに、性別や年齢に関係なく能力を発揮できるので、ぜひチャレンジの選択肢に入れてもらいたい」と話す。</p> <p>これから、新たな分野にチャレンジする女性の大きな励みになるものである。</p>	<p>●父親の経営する財津製作所での障がい者雇用の経験から、障がい者は環境があれば働ける力を持ち、働きたいと願う人が多いことを知る。働くことで得られる人としての幸せや、必要とされる喜びを一人でも多くの人に感じてほしいという思いから、平成23年に日田玖珠圏域初の障害者就労継続支援A型事業所を設立した。</p> <p>●現在は、11名の障がい者が就労しており、障がい者だけでなく、事情により就労が難しい人々を積極的に雇用し、協力し合い助け合う働きやすい職場づくりに努めている。</p> <p>●平成13年から、障がい児を持つ親の相談や支援を行う活動を始め、17年には、NPO法人「障害児支援の会ぱれっと」を設立し、理事長に就任する。障がい児の個々の状態や課題に合わせた療育指導を行う訓練を実施しており、23年度からは、日田市の委託事業として行っている。</p> <p>●また、自分の子どもが通っていた放課後児童クラブ指導員の労災適用や育児休業、介護休業を取得できるように就労規則の改善に尽力した。</p> <p>今後は、障害者就労支援事業所の規模拡大だけでなく、地域の農業振興のために、新たな事業所の開所も目指しており、地域の振興に貢献することが期待できる。</p>

表彰者	【団体】NPO法人 こどもサポートにっこ・にこ	【団体】有限会社 <small>たのしきしや</small> 楽四季舎
代表者	事業部長 小畑 たるみ	代表取締役 甲斐 榮子
所在地(住所)	杵築市山香町大字野原1413番地3	杵築市山香町大字内河野2552-1
設立	H18年～	H17年～
活動内容	<p>●平成9年に子育ての悩みを持つ母親4～5人が、母親が安心して働くことができ、子どもたちが安全に育つ場所が必要という思いから「マザーの会」を作り自主活動を始める。</p> <p>●平成10年にプレ学童保育を実践したことにより、「放課後児童クラブ」の必要性を認識し、クラブの設立に向けた署名活動などを行った。</p> <p>その結果、11年に山香町から学童クラブの委託を受け、「トトロクラブ」を発足。18年には、NPO法人の認証を受け、現在、社員25名（うち男性5名）で運営している。</p> <p>●杵築市の委託を受け、児童クラブの対象年齢の拡大、長期休暇や休日の預かり保育を実施するとともに、地域の独居高齢者と子どもたちの交流を目的に「虹色ゆうびん事業」を実施し、毎月の手紙と誕生月の訪問に取り組んでいる。</p> <p>また、活動を維持するために、民間の助成金を活用するなど、自立した運営を行っている。</p> <p>●今年度からは、子育て中の母親への訪問支援（ホームスタート事業）も実施し、多様化する子育て支援のニーズに応えている。</p> <p>今後も子育て支援だけでなく高齢者の見守りなど、地域における活躍がますます期待される。</p>	<p>●農協のボランティア活動で高齢者の配膳サービスをしていた女性たちが、地域の新たな特産品づくりとして、地元で生産される米や農産物を原料とした、添加物を使わない安心・安全な食品を届けたいとの思いで「だんご」や「まんじゅう」などの手作り商品の製造販売会社を設立した。</p> <p>なお、男性社長が開業前に急きょ退任したため、製造と販売だけでなく、会社経営もすべて女性のみで行っている。</p> <p>●当初は、技術力が高い60代以上を中心に採用していたが、勤務シフトを柔軟に設定できるため、地元の子育て中などの女性に雇用の場を提供することにより、後継者の育成も進めている。</p> <p>また、自家製粉のため余ってしまう米粉を活用した「米粉パン」や、近年大きな課題となっている獣害対策の一環として、地元の異業種業者と連携して、イノシシ肉を使った新商品の開発にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>●起業後、初年度を除き6期連続で黒字を達成するなど安定した経営を行っており、今後もギフト商品の開発など地域の活性化が期待される。農山漁村地域の女性による起業の成功例として、ロールモデルとなっている。</p>

平成23年度「女性のチャレンジ賞」受賞者一欄

表彰者	【個人】足利由紀子 (NPO法人水辺に遊ぶ会理事長)	【団体】NPO法人 アンジュ・ママン	【団体】有限会社 夢咲茶屋
代表者		理事長 吉原 安彦 施設長 小川 由美	代表取締役社長 藤本 京子
所在地(住所)	中津市	豊後高田市美和1335番地1	国東市国東町小原2712-1
設立	H11年～	H19年～	H6年～
活動内容	<p>●学生時代からボランティア活動を始め、民間企業での勤務を経て、夫の転勤により中津市に移住、H11年、「水辺に遊ぶ会」を設立し、中津干潟の保全活動を中心に本格的な活動を始めた。H18年には、NPO法人格を取得し、理事長に就任する。中津干潟等の自然観察会、調査研究活動、漁業体験や地産地消を目的としたお魚料理教室、海岸清掃、漂着ゴミの調査など幅広い環境保全活動を地道に行ってきた。</p> <p>●それらの活動は、多くの共感を得、現在では、地元住民、漁業者、企業など地域を巻き込んだ大きな活動へと発展している。</p> <p>●また、豊富な知識と経験を活かし、環境学習の講師や、シンポジウムや学会等での講演も行っており、山、川、海のつながりの大切さや身近な環境保全の重要性などについて、積極的に情報発信するとともに啓発活動を行っている。</p> <p>●人々の環境問題への関心が低かった学生の頃から、環境保全活動をライフワークとして取り組み、重ねてきた実績は特筆すべきものがあり、国内外のNGOとの交流など、今後の活躍がますます期待される。</p>	<p>●平成16年、豊後高田市の子育て中の女性6～7人が、子育て中でも何か社会のためのできることはないかという思いから、任意団体「アンジュ・ママン」を立ち上げた。</p> <p>●平成19年度から、市の委託を受け、子育て支援拠点施設「花っ子ルーム」の運営を行うようになり、平成22年3月、NPO法人の認証を受けた。現在は、スタッフ24名、外部役員6名、計30名で運営している。</p> <p>●市事業受託後、自分たちの子育て経験を活かし、時代の変化や利用者のニーズにマッチした新しい事業に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>また、平成23年度は、新しい公共事業として、昭和のまちの中に「おひさま広場」を開設。行政、商店街、青年部などと連携した事業を展開、地域を巻き込んだ子育て支援を実践している。協働の好事例である。</p> <p>●これらの活動は、豊後高田市の子育て環境の充実や地域の活性化に貢献するだけでなく、社会との接点を持ちにくい子育て中の女性の自己実現の場、チャレンジの場となっている。</p>	<p>●旧国東町の農家の女性30名が出資し、町の補助を受け、当時はまだ珍しかった国東町農産物加工直売所「夢咲茶屋」を開業、農産物の直売、加工、食堂を経営している。平成11年には、女性の起業として、県下初の有限会社となった。</p> <p>●経営に当たっては、消費者に安全安心な農産物を届けることを重視し、同茶屋に農産物を卸す生産者の組合「夢咲あんしん農産物推進組合」の事務局として農業に関する勉強会の開催や、農業使用量を基準とした独自の農産物認証制度（金銀銅印）を設けるなど意欲的な取組を実践している。</p> <p>また、地域の小中学校からの要請に応じて、郷土料理の調理や農作業体験の指導を行うなど交流の輪も広げている。</p> <p>●新鮮で安全な農産物や素朴な郷土料理が口コミで広がり、明るく風通しのよい職場づくりも功を奏し、平成23年の販売額は開業当時の約5倍、来客数は約14万人と大きく成長した。</p> <p>●地産地消を実践することで、地域や地元の農家を元気づけるとともに、農山魚村の女性による起業のロールモデルとなっている。</p>

平成22年度女性のチャレンジ賞

表彰者	大肥郷ふるさと農業振興会加工部ももは工房	えとう 衛藤 めぐみ(35歳)	かさい まりこ 葛西 満里子(63歳)
代表者	もりやま とよこ 森山 豊子(56歳)		
所在地(住所)	日田市大字夜明693-1	宇佐市院内町大坪293「めぐちゃん工房」	大分市
設立 (生年月日)	平成10年		
表彰理由等	<p>●集落で将来的な農業のあり方を模索する中、平成10年、「大肥郷ふるさと農業振興会」の設立とともに、加工部として、女性3人で「ももは工房」を設立。以降、新たに2名が加入し、女性5名で地元産の米、麦、大豆を使った味噌などの加工品や原料の製造販売を行い、地域振興の一翼を担っている。</p> <p>●新商品の開発にも意欲的で、年々、製造量、販売額ともに増加、現在では、県下30店舗に販売するほか、大分市や近県のイベントにも参加し、全国に顧客を得ている。</p> <p>●「豆腐・味噌体験教室」や、小学生を対象にした「麦ふみ大会」など農業体験行事を開催し、消費者との交流による食育活動を行うなど、地域性を活かした特色ある取組も行っている。</p> <p>●工房設立後は、農産加工だけではなく、経営面も全面的に任せられ、メンバーが安心して働けるよう社会保険の加入等就労条件の改善にも努めており、農村起業組織から企業組織として確立しつつある。</p> <p>メンバーの和を大切に、着実かつ意欲的に活動を継続しており、これからの展開が楽しみな団体である。</p>	<p>●栄養士として保育所等で働いていたが、祖父の看護が必要となり、家でできる仕事ということで、地元の食材を使った手作りパン、ケーキの店「めぐちゃん工房」を自宅の一角にオープンした。</p> <p>●工房では、菓子や料理を提供するほかに、大分大学教育福祉科学部のフレンドシップ事業において、大学生を受入れ、小中学生を対象に「わんぱく塾」を月1回開催。また、「麦の学校」の開校、「宇佐市子ども食育マイスター試験」の実施など特色ある取組にも意欲的である。</p> <p>●自ら、宇佐市内の小学校等に働き掛け、「おおいた食育コーディネーター」として、子どもたちやPTAを対象に食育推進活動も行っている。</p> <p>●余谷の農業振興を目的とした「余谷21世紀委員会」のメンバーとして、むらづくりに関わるほか、地元食材を使った宇佐ブランドの商品開発など地域振興にも寄与している。</p> <p>●若い感覚をもって自分の得意分野において、やりたいことに積極的に取り組む姿勢は、多くの女性の共感を得るとともに、今後、地域の女性リーダーとしてのさらなる活躍が期待される。</p>	<p>●ガールスカウトの活動に長く携わっていた経験を活かし、大分のすばらしい自然環境を永遠に残したいという思いから、思いを同じくする女性たちに働き掛け、平成12年、「緑の工房ななぐらす」を設立、平成13年には、当時はまだ認証数が少なかったNPO法人の認証を受けた。</p> <p>●「緑の工房ななぐらす」では、設立時から理事長を務め、NPO法人では全国初となる「地域地球温暖化防止センター」の運営や、伐採竹によるマイ箸の普及、また、男性主体で行われてきた森林の整備など、年々その活動の幅を広げており、環境問題に取り組むNPOの草分け的存在である。設立当初は、女性中心の団体であったが、参加の輪を、男性や子どもにまで広げ、それぞれの得意分野で楽しみながら活動するスタイルは、男女共同参画の理想的なモデルである。</p> <p>●加えて、「九州環境教育ミーティングの実行委員会」の事務局を担い、他県のNPOの支援にも精力的に取り組んでいる。</p> <p>性別や年齢にとらわれず、自らの思いを具体化していくチャレンジ精神は、多くの人に訴えるものがある。</p>

平成22年度女性のチャレンジ賞

表彰者	かねまる さゆこ 金丸 佐佑子 さん(69歳)	わだ このみ 和田 木乃実 さん(51歳)
代表者		
所在地(住所)	宇佐市	国東市
設立		
表彰理由等	<p>●38年間県立高校で家庭科教師として勤務。退職後、平成9年、囲炉裏やかまどなどを備えた生活工房“とうがらし”を自費で建設し、地域に伝わる料理づくりを通して食の伝承活動に取り組みとともに、講演や学習会を行い、食育の普及を実践している。</p> <p>●執筆活動も積極的に行い、西日本新聞大分県版で、平成18年9月から平成19年4月までの間、活動を通じての思いを連載し、まとめたものを「おいしさ以上のもの」として出版した。</p> <p>●東京銀座にある大分県のフラッグショップ「坐来大分」においては、ホームページ上のSHOKU（食）に寄稿、総合監修を行うとともに、自ら宇佐市長に働き掛け、「宇佐フェア」の開催にも尽力した。</p> <p>●また、「大分県食育推進会議」委員や「宇佐市6次産業創造推進協議会」のアドバイザーに就任し、これまでの活動経験をもとに積極的な提言を行っている。</p> <p>「食育基本法」制定以前から先駆けて実践してきた地道な活動は、今後さらに、人づくり、地域づくりに発展することが期待される。</p>	<p>●嫁ぎ先の祖父に表装の技術を学び、女性表具師として着物や古着を使った創作屏風で新境地を開拓した。</p> <p>●平成9年には、約130年前に建てられた木造日本家屋を改修し「涛音寮」とし、自らの創作屏風のほか県内外の工芸家等の作品を展示している。</p> <p>また、定期的に演奏会や工芸教室を開催、一角では、地元特産品を使った「たこ飯」など食事も楽しめるようになっており、地域住民はもとより、県内外から多くの人を訪れる。</p> <p>●国見在住の芸術家で構成する「国見アートの会」代表を務め、国見町内の工房・ギャラリーマップを作成、「国見町工房・ギャラリーめぐり」などの行事を開催、「アートの町国見」を全国に向けてPRしている。</p> <p>●表装という、20数年前は女性がめずらしい分野に飛び込み、女性ならではの感性を活かした独自の世界を作り上げたチャレンジは、先駆性に富んでおり、新たなことに踏み出そうとする女性に勇気を与えるものである。</p>

平成21年度女性のチャレンジ賞

表彰者	大分いのちとくらしを考える会	漁村女性起業化グループ「めばる」	特定非営利活動法人夢苞 <sup>つと</sup>	株式会社夢のぼり工房
代表者	代表者 和田 英子	代表者 桑原 政子	理事長 渡邊 由美子	代表取締役 秦 千恵美
所在地	大分市	佐伯市鶴見	竹田市	杵築市大田
設立	昭和54年3月	平成16年5月	平成12年11月	平成20年4月
表彰理由等	<p>今から30年前、主婦7人を中心に、同会を発足させ、無農薬野菜や卵、無添加食品の共同購入を始めるとともに、食生活を見直し、学校給食の改善や農薬・食品添加物・合成洗剤を使わない運動を行い、行政や企業に対して働きかけを行ってきた。</p> <p>毎年1回、農業、化学肥料を使用しない野菜の販売、無添加物などの安心・安全な食べ物を紹介する「よっちょくれ食べものこだわり市」を開催し、好評を博している。</p> <p>また、公園や河川敷の除草剤使用禁止を訴える活動、クローン牛や遺伝子組換え食品に反対する運動等、日常生活に根ざした女性ならではの視点に立ち、活動を行ってきた先駆的な女性達である。</p>	<p>まき網漁業で魚の選別を行う漁師の主婦10名が、「漁師が食べている高鮮度のおいしい魚を食べてもらいたい」という思いで結成。</p> <p>地元鶴見で水揚げされる鮮度のいい魚介類を消費者に届けるため、活魚の移動販売にこだわり、工夫を重ね、今では活魚の取り上げ、運搬、販売まで活魚出荷の一連の作業を男性の手を借りず、メンバー達で行っているパワフルな女性達である。</p> <p>また、活魚以外にも、ごまだし等の商品開発にも取り組み、営業活動も粘り強く実施した結果、順調に売り上げを伸ばしている。</p> <p>魚の本当のおいしさを伝え、漁村の魚食文化を守るため、県内各地で活動を行っており、その思いは活魚販売の訪問を心待ちにする常連客が現れるなど確実に一般消費者へ伝わっている。</p>	<p>平成6年、福祉に関する勉強会を立ち上げ、続けることあしかけ7年。勉強会だけでなく、困った人への具体的な手助けがしたいと、平成12年11月NPO法人を立ち上げる。</p> <p>「自分たちでできることは自分たちでまかなう、助け合う、支え合う」という個人の尊重と環境を創り出すことに、自分たちの活動の一つのねらいがあると、理事長は語る。</p> <p>高齢者や児童など社会的弱者といわれる立場の人をなんとかしたいという思いから、放課後児童クラブや高齢者共同生活支援事業、介護保険事業等事業を拡大してきた。</p> <p>「避けて悔いを残す」より、「まずは関わってみる」のが夢苞精神と、スタッフの驚異的ながんばりで、地域の人々にとって欠かせない存在となっている。</p>	<p>平成10年、地元の人達の交流の場所づくりをしたいと、地域の女性3人で「横岳ふるさと茶屋 夢のぼり」を開業。地元産の豆とクリ、ギンナンを炊き込んだ「お宝めし」を作り、ブランドを確立し、冷凍食品化にも成功。平成20年に法人化。</p> <p>「夢のぼり」は、製造、販売、営業等の主要部門を女性が担っており、新商品の開発や販路拡大にも積極的に取り組んできた。</p> <p>また、地域の農家と豆の契約栽培をするなど経済波及効果も生み、栗の皮むきや銀杏の殻むきは、地元の高齢者などに委託することで生きがいづくりにもつなげている。</p> <p>小さな山あいの過疎地域で、秦社長曰く「日常的な経済活動を楽しみながら地域活性化に奮闘」している団体である。</p>

平成20年度女性のチャレンジ賞

表彰者	青山女性百人会	有限会社 てづくりおやつのお店	阿南美根さん・神田真美さん(藤丸建設有限会社女性棟梁)
代表者	代表者 本田 房代	代表取締役社長 安部 功子	
所在地(住所)	佐伯市大字青山大通り区	宇佐市院内町香下1940番地の1	大分市片島3008番地の3
設立 (生年月日)	平成17年7月	平成18年1月	阿南美根さん(37歳) 神田真美さん(35歳)
表彰理由等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分達の地域は自分達で守ろうと、「自主防災」を目的に発足した女性団体。</li> <li>●地区の独居老人や青少年の見守り活動を行う一方、災害時の炊き出し等のボランティアの練習を行うなど、地域の防災力の強化に取り組んでいる。</li> <li>●自家製野菜や加工品等の販売や、幼児から高齢者まで世代を超えて人々が交流できる場を提供したいと「青山ピンコロ軒」を開店。</li> <li>●平成20年11月、地域の認知症や引きこもり予防のための拠点づくり事業「さいきの茶の間」に認定される。</li> <li>●過疎高齢化が進む中、「地域を活性化するためには、地域の女性が今まで以上に元気で力を発揮していかなければいけない」という思いから、従来、女性の参画が進んでいない防災等の分野においても、女性ならではの視点を活かした積極的な取組を進めており、他に例をみない先駆的な取組といえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成元年、院内町若妻会の有志で「ミセスいない町づくりグループ」を結成。町内の空き店舗を借りて、本格的に農産加工に取り組む。</li> <li>●平成12年、国道拡張工事に伴う立ち退きにより、温かみのあるログハウス調の店舗でリニューアルオープン。できたてのおやつをその場で食べることができる喫茶コーナーを設置し、若い世代からお年寄りまで気軽に立ち寄れる「交流の場」として利用されている。</li> <li>●平成18年には、有限会社化し、総菜部を立ち上げ、旬の野菜をふんだんに使ったお総菜や里山弁当の販売を行うなど、多角的な経営にもチャレンジしている。</li> <li>●「安心して安全な地元の特産物を使ったおやつを、子どもたちに伝えたい」そんな母親たちの思いから始めた小さなお店が、地域の活性化に欠かせない存在となり、そこで働く女性の自己実現の場となっており、そのチャレンジは新たな一歩を踏み出そうとする女性の大きな励みになるものである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●藤丸建設有限会社に勤務する二人の女性棟梁の一人である阿南さんは、25歳の時、「男女不問」という同社の求人を見て、OLから転身し、“匠の道”に飛び込んだ。</li> <li>●もう一人の神田さんは、高校の建築科出身。当初は設計士の道を志していたが、「屋外で自然の移り変わりを感じながらの仕事」に魅力を感じ、“方向転換”。</li> <li>●建築現場には一般的には男性が多い中、数千パーツの木材に、一つ一つ切断する箇所印を入れる「墨付け」から、完全に一棟作り上げることができる女性棟梁は、全国的に見てもまだまだ珍しく、今後の活躍が大いに期待できる。</li> <li>●従来、男性中心の分野に果敢に飛び込み、女性ならではの緻密さを持ち、女性の視点に立ったものづくりを実践している二人の姿は、後に続く世代に大きな勇気を与えるものである。</li> </ul>

平成19年度女性のチャレンジ賞

表彰者	ちかこ 井上睦子(株)井上酒造代表取締役社長	NPO法人パワーウェーブ日出	吉野食品有限会社
代表者		代表者 小野 町子	代表取締役 帆足 キヨ
所在地(住所)	日田市大字大肥2220-1	日出町藤原4737番地116号	大分市大字吉野原278番地
設立 (生年月日)	昭和12年10月9日	平成17年6月	平成15年12月
表彰理由等	<p>●井上酒造は1804年創業。平成16年7月に株式会社へ組織変更。同社社長に就任。</p> <p>●かつて、酒蔵は、神様に祈り捧げる酒を作る神聖な場所であり、女人禁制の場所であった。</p> <p>男性中心の社会にあって、氏は、女性として珍しい日本酒ソムリエ（きき酒師）の資格を取得。</p> <p>その後、酒造りをしたいという強い思いから、周囲の批判の声をはね返し、氏をリーダーとする女性3人の清酒開発チームを組織し、新商品の開発に取り組んだ結果、「久津媛（ひさつひめ）」、「桃色にぎり 花便り」等を生み出した。</p> <p>●また、来訪者には自家製の日本酒を振舞い、雅楽やフルート演奏会を催すなど女性の感性を活かし日本酒の普及にも努めている。</p> <p>●従来、男性中心の分野に、女性の能力を発揮できる場所を切り開いた井上氏のチャレンジは、新たな分野に進出しようとする女性の大きな励みになるものである。</p>	<p>●ITを活用し情報技術やその活用能力の向上、人的ネットワーク作り等の支援を通じて、福祉、地域活性化のための様々な活動を支援することを目的に設立。</p> <p>●平成17年9月にマイクロソフト社の支援を受け日出町で子育て中の女性を対象に「日出講師養成講座を開講。託児付のパソコン教室だけでなく、講師として活躍できる人材を養成。この他、託児サポーター養成講座や無料IT相談を実施するなど地域に根ざした活動を実施。</p> <p>●平成18・19年度は、在宅就業支援事業を大分県から委託され実施。さらに、平成19年度より福祉保健医療機構の支援を受け、大分市で子育てサロンの開設やSOHO（在宅就業）講座を開催するなど精力的な活動を展開中。</p> <p>●本団体の活動は、子育て中の母親に対して、ITを活用して社会参加の場づくりを進める、他に例をみない先駆的な取り組みである。</p>	<p>●昭和63年米の消費拡大と郷土食「とりめし」の技術の定着普及を図るため、吉野地域婦人会の女性12名が設立した「吉野鶏めし保存会」が母体。</p> <p>●当時、地域が過疎・高齢化に見舞われ、婦人会活動が消失し始める時期であったが、地域伝承料理の保存と伝承活動を核に地域の女性達と目的を共有し、地域住民、商店などを巻き込み、地域活性化を実現させた。</p> <p>●平成15年には、有限会社として再スタート。会社組織を立ち上げたことにより、単に農村女性の活動を越え、食品産業への進出となり、鶏めしの具材や冷凍食品の販売など全国的に販路を拡大することに成功。平成18年の年間販売額は3億6千万円に達している。</p> <p>●女性パワーを結集し、地域をリードし、起業グループから企業への展開を図り地域産業の発展に貢献した。また、農山漁村女性による起業の成功例として、後に続く団体のロールモデルになっている。</p>